

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	朝の時間を活用し、ミライシードやスタディサプリなど個の課題に応じた学習に取り組む時間を教育課程に位置付け、基礎基本の定着を図る。また、授業のはじめに前時の振り返りをする時間を設けるなど、知識・技能の獲得につなげていく。授業改善だけでなく、日々の生活の中でICT利用と家庭学習にも意識させるよう努力し、さいたま市学習状況調査において市平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、前年度調査を上まわるようにする。
思考・判断・表現	小集団でのグループ活動を単元の中に意図的に設定することで、多様な考えに触れる機会と、自分の考えを表現する機会を増やしていく。生徒自ら考えICT等を活用しながら学習活動を進めていき、さいたま市学習状況調査において市平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、前年度調査を上まわるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査において「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」と「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を市平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、前年度調査を上まわるようにする。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査「知識・技能」において、全国平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、国語、数学共に前年度調査を上まわる。 令和5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、市平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、国語、数学で前年度調査を上まわる。	⇒ 朝読書以外に、NIE、数学のモジュール等を年間を通して定期的に取り組む。 朝の「スタサブタイム」ICT等を活用し、基礎基本の定着に向けて繰り返し取り組む場を設定する。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査「思考・判断・表現」において、全国平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、国語、数学共に前年度調査を上まわる。 令和5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、市平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、国語、数学で前年度調査を上まわる。	⇒ 「教師が教える授業」から「生徒が自ら学び考える授業」になるよう、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を推進していく。 ICTの活用や生徒の活動の充実させ、主体的に学習に取り組む授業の場を設定していく。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査において、国語、数学に対して「主体的に学習に取り組む態度」に係る項目の全国平均肯定率と自校の平均肯定率の差の値が、前年度調査を上まわる。 令和5年度さいたま市学習状況調査において、「主体的に学習に取り組む態度」に係る項目の市平均肯定率と自校の平均肯定率の差の値が、前年度調査を上まわる。	⇒ ICT機器を活用し、可視化や、効率化等を図ることで「分かりやすい授業」を展開していく。 単元や本時の課題を明確にし、見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。

次年度に向けて (3月)

目標・策の設定 (4月)

年度末評価

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、市平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、R4年度より国語が1年生-2pt、2年生-1pt、数学が1年生+1pt、2年生+1ptであった。今後も、国語、数学共に勉強会を継続し行っていく。	B
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、市平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、R4年度より国語が1年生+1pt、2年生+3pt、数学が1年生±0pt、2年生-1ptであった。今後も、授業に話し合い活動を積極的に取り入れ、「思考・判断・表現」を養っていく。	B
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査において、「主体的に学習に取り組む態度」に係る項目の市平均肯定率と自校の平均肯定率の差の値が、前年度調査を上まわることができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査「知識・技能」において、全国平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、国語、数学共に前年度調査を上まわることができなかった。領域で見ると、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、数学では「数と式」が課題であった。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査「思考・判断・表現」において、全国平均正答率と自校の平均正答率の差の値が、前年度調査を国語は上まわったが、数学は上まわることができなかった。領域で見ると、国語では「書くこと」、数学では「データの活用」が課題であった。記述式の問題形式では、前年度を大きく上回っていた。
主体的に学習に取り組む態度	国語・数学・英語で学習したことが、将来に役に立つかの質問に肯定的に回答する生徒が、全国平均と同じだったが、家庭学習の取り組みは、全国平均を下回っていた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査は参考値扱いとなります。	
中1	市平均と比べ、勉強が好きという設問において、国語(+6pt)、数学(+8pt)、社会(+3pt)、理科(+7pt)、G・S(+2pt)の全教科肯定的であった。R4年度さいたま市学習状況調査より、「知識・技能」において、数学+1pt、理科+1pt、また、「思考・判断・表現」において、国語+1pt、理科+3ptであった。数学の数と式、社会の地理的分野、理科のエネルギーを柱とする問題は改善が見られた。どの教科でも自校テストでは、概ねできていた内容でも正答率が低いものがあった。既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。
中2	R4年度さいたま市学習状況調査より、「知識・技能」において、社会+1pt、また、「思考・判断・表現」において、理科+1ptであった。国語の書くこと・読むこと、社会の地理的分野の問題は改善が見られた。どの教科でも自校テストでは、概ねできていた内容でも正答率が低いものがあった。既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切に、生徒が知識・技能を獲得し続けるよう授業改善に努めている。
中3	R4年度より肯定的な回答の割合は、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」の質問項目において+11pt、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において+7ptであった。2年時よりも高い結果であり、主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

中間評価(9月)
目標・策の見直し